地域連携だより

Vol.7 2022.7.1 発行:医療法人青樹会

内丸病院

2019 (654) 5331

T020-0015

盛岡市本町通一丁目12-7

(発行者:地域連携室)

各病院の代表者により協定書に署名

鶯宿温泉病院、

そのため、

内丸メディカル

て、

院 ンターを主軸とし

や対応策を話し合い標準化を図 だものです。 行うこととして連携協定を結ん この協定により、 各病院の感染症の発生状況 年に4回以

> ために、今後も努力を続けて 治療を受けられる病院である

何よりも患者さんが安心して

いきます。

て地域 した。 対策など院内の感染対策につい 方を推進することが求められま 今年4月からの診 新型コロナウィルスの感染 徹底した研修や対応のあり 内医 療 機 関の連携によ 報 酬

安心して療養できる環境作りを 病院が連携して地域内の患者さ んが感染防止対策の徹底により そして内丸 孝仁病 るほか、 対策を講じていくことを目指 可能性もあることから、 らも新種のウィルスが発生する の発生から2年を過ぎ、これか た想定での訓練も行うこととし ています。 ています。 感染症が院内に広がっ 新型コロナウィルス 万全の

7月…初旬の山々は っぱいの時期。ずいぶん すが尾瀬ヶ原のイワカガミ、チョウキスゲ、ワタスゲなどの名とを想い出します。 ♪ スポイン す・遙かな尾瀬 や秋田駒ケ岳でもニッコウキスゲが咲, ただ気になるのは態の出現。今年は、

が珍しい早池峰山でも被害に遭うほどで

す。新型コロナウィルスの影響で ちろん、名は撮っても取ってはいけ ません!思いっきりリフレッシュはどう ですかい。



策をさらに強化していきます

川院長が出席・調印し、

地域とあわせ内丸病院の感染防止対

内丸病院からは宮

ととして連携協定の締結式を行いました。

地域内医療機関の連携で院内感染防止対策を徹底するこ

岩手医大内丸メディカルセンターにお

6月6日

(月) 、

署名した協定書を厳粛な面持ちで 公表する盛岡保健所長と各病院長

こんにちは!

栄養管理室です!

私はゴーヤです!グリーンカーテンと い浮かべますか? して育てている方も多いですね! 皆さんは夏の食べ物といえば何を思

成分が含まれているので紹介します。 夏が旬のゴーヤには、夏に摂りたい

Cは、ビタミン豊富なピーマンやキウ 成を抑えシミを予防する効果も。 くいと言われています。風邪の予防、 イと同等量含まれ、加熱しても壊れに コラーゲン生成の促進、メラニンの生 まずビタミンC。ゴーヤのビタミン

> メージに紫外線ダ タミンで 必須のビ

野菜に多 いカリウ 次に夏 すね!

要因の一つになっているようです。 野菜は体を冷やす」なんて言われる 尿と一緒に体温を逃がすため、 カリウムには利尿作用があり、

泌を促す効果があり、食欲増進、 モルデシン」。こちらは、胃酸の分 バテ予防に効果的です。 最後にゴーヤ独特の苦み成分「モ

り、ゴーヤチャン めの食べ方はやは ですが、 プル。 そんなゴー おすす ヤ

ることで、アリシ を効率よく吸収 が、ビタミンB1 ンという匂い成分 やニンニクを加え す。さらに、ニラ あるビタミンB1 く含まれていま は豚肉や豆腐に多 疲労回復効果の

ないよう木々の間に2つの鉢を

メダカ達に直射日光が当たら

プを置きました。

柄院の庭先に睡蓮鉢のビオトー

昨年に引き続き、今年も内丸

季節に後りました。

~今年もピポトーでの

置いており、

梅雨の時期の今、そばには紫陽花が咲いています.

密かに世はメダカブーム。季節の花々と共にビオトープを楽しみ

ませんか。

							R4.7 現在
外 来 担 当 医							
		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
内科	午前	岩手医大 救急科 下山 賢	寺山茉莉	宮川朋久 (内科·循環器内科) (第2以外)	照井克俊	梁井香	
		愛木隆 (内科·消化器内科)		瀬川郁夫 (循環器内科) (第2)	加藤さくら (内科・呼吸器内科)	宮本勇二	
				愛木隆 (内視鏡検査)			
	午後		佐藤芳行 ^(訪問診療)				
外科	午前						
	午後	秋山有史 胃ろう交換					
整形外科	午前						
	午後	岩手医大 救急科 下山 賢					
- ※学会などで担当医が変更になることがあります。							

てくれます。

旬の野菜を食べて、夏を乗り切りま

しょう。】 ないようにしま があるため、 を引き起こす危険 じた場合は、 ウリ科の植物で、強い苦みや渋みを感 【ちなみに、ズッキー二やヘチマなど 腹痛や下痢などの食中毒 食べ